| 9 | 歴史文化遺産の保全と活用 |
|---|---|

● 施策評価の実施（第４回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

委 員 長　内部評価結果調書を見る限りでは、今後の方向性が施策全体として拡大と読み取れます。

今後については、自己評価を踏まえてどういった歳出抑制策を考えておられるのかをお示しください。

担当部局　市史編さん事業については、当初は１０年計画で取り組んでいましたが、若干刊行の進度が遅めになっています。

取組期間を伸ばすと、全体の事業費が膨らむことが想定されますので、全体の調査を効率的に終え、期間内に事業を終えることで、全体の事業費を削減するという方針です。

また、編集委員をお世話になっている大学の研究費を活用していくということも検討しています。

網野銚子山古墳については、かなり良好な保存状態で残っていることから、余り手を加えずに、できるだけ今の状態のままをみせるというようなことを心掛けて、経費節約を行っていきたいと考えています。

委　　員　京丹後市の歴史を伝えていくことは大事だと思いますが、生命と財産の部分について予算を削減しなければならないという中では、ここまでの事業を行う必要があるのかと感じます。

文化財に関する国の法律がある中で、事業のほとんどが市単独の財政負担となっていますが、国からの財政的な支援はないのでしょうか。

担当部局　整備については、例えば、土地の購入については、８割補助というように有利な補助制度があります。

委　　員　現在あるものについての整備事業について制度はないのでしょうか。

担当部局　整備の実施設計や整備工事に関しての国の補助制度の適用はあります。

委 員 長　必ずしも優先度が高くないのではないかというご指摘があったということです。

委　　員　私は逆で非常に大事だと思います。

施策貢献度について、ほかの施策ではＡという評価が多い中、控えめにＢ

という評価が多くなっており、非常に残念です。

施策目的で掲げられている郷土愛を育むことができる環境づくりなど、やり方次第では評価がＡになっても良いと思います。

裏を返せば、市の歴史や文化財が京丹後市の教育で余り利用されていないことを表しているものと思われます。

現在、小学生の遠足で市外の施設に行くことが多いのですが、そうではなくて、古代の里資料館へ遠足に行くとか、放課後児童クラブの受け入れを郷土資料館でするとか、もっと利用するようにして、予算の範囲内で施策貢献度がＡになるようにがんばっていただきたいと思います。

委　　員　合併したことにより市域が広範囲になったので、小学生にとっては、行ったことがない市内の施設がたくさんあります。

そのような中で、対象を観光に持ってくるのか、それとも学習面に持ってくるのかということだと思います。

市の魅力を発信するのであれば、観光を意識することになりますが、現在の施設について、必ずしも観光客が来るとは思えません。

そうなってくると、施策目的にも記載されているように郷土愛を育むという格好になってきますが、学習面で活用するのであれば、毎週５日間も開館しておく必要があるのかということになります。

現状では、入館者も少ないと思いますので、日曜日に限定するとか、もっと授業の中に組み込んでもらうなど、そういったことをしてもらえれば価値があると思われます。

委 員 長　本施策については２年前にも評価していますが、２年前の評価結果の観点からしますと、腑に落ちない部分があります。

２年前の評価の際には、観光に積極的に生かしていく取組をされるということでありましたが、それがどこに行ってしまったのかと率直に思います。

また、丹後王国の貴重な文化遺産を発掘する、それを市外に流出しないように適切に保存し、展示してそれを教育や観光に積極活用する、そのために文化財博士にも積極的に協力いただくようにしたい、というお話でした。先ほどの担当部局からの説明では、そういったことが全く出てきませんが、どこかで方針転換があったのでしょうか。

担当部局　網野郷土資料館ですが、平成２１年度の入館者数が９８５人でしたが、昨年度は５５６人に減少しています。

網野郷土資料館については資料数が約７，０００点あり、京都府下の民俗資料館では一級の資料館だと思っています。そうであるにもかかわらず、入館者が減ったことについては、再度チェックが必要と考えています。

結果を見ると、平成２１年度と比較してかなり入館者が減ったということが反省すべき材料であります。

委 員 長　今、歴史資料館のことだけを触れていただいていますが、それは文化財で発掘したものは、全てこの２つの資料館に回して、そこで観光に役立つはずであるという前提があるということですね。

担当部局　そのとおりです。ただし、観光のＰＲについても方向を模索していますが、結果として数字で表れていないというのが現状です。

結果からみると、観光資源としての活用方針が、弱いのではないかと分析しており、そこの部分が非常に重要な要素であると考えています。

委 員 長　以前にお伺いした際には、次々と発掘していったものを保存する場所がない、そのために散逸する云々というお話がありましたが、そのことについてはその後どのようになったのでしょうか。

担当部局　現在、６か所の場所に考古資料を保管しており、手狭になってきているものの、若干余裕があります。

今後の方向としては、学校の再配置により、今後、いろいろな施設が空いてくると想定されますので、当然地元との協議が必要になってきますが、場合によってはそういったところが保管の候補地になると考えています。

委 員 長　根本的な問題として、発掘したものを適切に保存して、それを活用するということがきれいに流れていっていないと始まらないことから、そこを生かす部分についてめどが立たないのであれば、むしろ掘らないほうが良いのではないかという考え方ができます。

開発により潰されてしまうということであれば困りますが、思い描かれているサイクルがうまく回っていないような気がします。

前回は、これからこのようにしたいというお話でしたが、今回伺うと２年間いろいろと試されたが、どうも展望が見えないのではないかというのが率

直な感想です。

担当部局　現状としては、財政が厳しい中で、現状の施設を維持管理するのが精一杯の状況です。

観光に生かすには、まだまだ施設として不十分で、さらに充実したものでないとやっていくのは難しいと思います。

委員長が言われたように、発掘したものを展示して、見ていただけるくらいの施設しかできていないのが現状と思われます。

委　　員　観光のことを教育委員会でしようとすることが無理ではないでしょうか。

観光関係の部署でやってもらわないと難しいと思います。

担当部局　パンフレットなどを作成し、配布して、資料館に来ていただいたとしても長時間滞在できる施設ではなく、都会にあるような博物館まではいかない状況です。

委　　員　入館料はいくらでしょうか。

担当部局　古代の里資料館が３００円、網野郷土資料館が大人２００円、子供が１００円です。

委 員 長　全体的に、大きく削減の余地があるようには見えません。

発掘しても保存場所にも活用方法にも困っているのであれば、発掘作業の進行速度を遅らせることで、発掘を行う職員の数を減らし、人件費の削減を行うことが、一番の歳出削減になると思われますがいかがでしょうか。

担当部局　計画的に発掘を行わなければ、開発の際に遺跡が発見されてから発掘していたのでは間に合わないという問題があります。

予算枠を持ち、毎年やっていく必要があるのではないかと考えています。

委　　員　市史編さん事業は、１４巻作る計画で、現在、３巻までが刊行されているということですね。

担当部局　はい。

委 員 長　スケジュールが大分遅れていますね。

担当部局　１年目に調査した内容が１年目に発刊されることにはなりません。最初は、調査や資料収集が多くなる関係上、どうしても後年度にたくさん発刊されることになります。

委 員 長　発刊が多くなる年は、その分多くの経費が掛かるのではないでしょうか。

担当部局　発刊にあたり印刷製本に掛かった費用の一部は、販売代金により、収入として入ってくることになります。

委 員 長　発刊のペースを落とし、全体のスケジュールを延長することで、単年度の事業費を少なくすることができます。この場合、どのような支障が生じるのでしょうか。

担当部局　調査研究作業と同時並行で執筆監修作業をしてもらっており、発刊を延ばすことにより作業が分割されてしまい、結果、余分に京丹後市に来てもらう必要が生じます。また、記憶が薄れてくるため、従来であれば覚えている範囲で執筆監修作業ができていたところが、再度資料の調査や確認といった作業、また、日数が必要になることなどが想定され、作業の効率性が失われることとなり、余分にそういった経費が膨らんでくると思われます。

委　　員　発刊する冊数を減らしたら良いのではないでしょうか。

子供の夏休みの宿題ではありませんが、１０年でしようと思うと、大体８年くらいでやって欲しいと言わないと、１０年ではできないと思います。

また、民間であれば、契約の際に、延びた分については無償という取扱いにすると思われます。

委 員 長　一般論としては、発刊冊数を減らすとか、期限を延ばすことで縮小ということは考えやすい方法であるように思われます。

指定管理施設運営事業に関し、琴引浜鳴き砂文化館は、経費が多いのが目に付きますが、そもそも文化財となるのでしょうか。

担当部局　琴引浜鳴き砂文化館は、京丹後市の観光の顔の役割もあり、確かに経費も掛かっていますが、鳴き砂という自然の部分を京丹後市から発信するという大きな役割も果たしています。

琴引浜は、平成１９年に国の天然記念物及び名勝になっており、子供から大人まで、単純に鳴くということについては、他の文化財よりもはるかに分かりやすいとことから、市のイメージにかなり貢献している部分があります。

委 員 長　網野郷土資料館や丹後古代の里資料館について、正直、２年前からそんなに良い方法があるわけでもなく、入館者が激増しているわけでもないという現状からは、資料館をネットワーク化しても、余り顕著な効果が期待できないのではないかと思います。

例えば、市民局の建物の一つをまるごと資料館としてしまうということになれば、抜本的に立て直すことのできるめどはあるのか、それともそこまでやっても駄目なのか、どのように思われますか。

今の資料館のまま運営をして、抜本的に観光や教育に成果があるのかという気がします。

他方で、他の施策を見ていますと、別に市民局だけではありませんが、建物が十分に活用されていないという施設も見受けられますので、そういった施設をそもそも資料館に転用することが可能なのかについてお伺いします。

担当部局　学校の再配置の関係で施設が今後空いてくると想定される中で、学校を文化財の資料館的なものに転用ができないかと考えています。

いろいろな文化財が点在しているため、お客さんの集約ができないことから、一つの場所で、そこで２時間くらい滞在できるような形のものができないかと考えています。

現在、遺跡などを中心に展示をしていますが、市では遺跡以外にも美術品なども所持しており、そういうものも展示をしたいと考えています。

ただし、そうすると経費がたくさん掛かるということになります。

委　　員　現状の人件費のことを考え、先の計画を立てていけば、そのほうが効率的で、観光のＰＲにもなりますし、良いように感じます。

委　　員　丹後古代の里資料館については、人件費が事業費の３分の２程度を占めていますので、統計をとり、開館日を減らすべきと思われます。

委 員 長　人が有効に集まる施設になるのであれば、市民局や学校などの施設を利用しても地域の人の理解が得られやすいのではないかと思います。

文化財博士については、いつご活躍いただけるのでしょうか。２年前の評価から、状況は余り変わっていないということでしょうか。

担当部局　現在、ＮＰＯ法人の組織があり、文化財博士育成講座で勉強されたかたがそちらに登録されています。

毎日ではないかもしれませんが、観光客に対して窓口を開いており、有料ではありますが、文化財博士の活用という形では、ＮＰＯ法人で動いてもらっています。

委 員 長　本施策については、２年前にも評価を行ったということもあり、目的につ

いて前回との整合性についてお尋ねしました。

また、歴史資料館のネットワーク化だけでは余り顕著な効果が期待できないのではないかということを委員会で指摘させていただいた次第です。

あとは、おおむねこのような事業構成になっていくとは思われますが、文化財博士登録についても以前お伺いしましたこととの関係で、触れた次第です。

歳出抑制の視点では、歴史資料館の廃止や再編、文化財の発掘や保存ということについてもペースダウン又はそれに関わる職員の人件費の削減、市史編さんについても半減に近い減量という検討があるべきではないかというアイデアを出させていただきました。

● 施策評価のまとめ（第５回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

※ 前回委員会における施策評価結果について、評価の振り返りと評価結果のまとめを実施。

委 員 長　遺跡発掘調査等事業について追加説明が出ています。発掘せずに開発をしてしまうと、破壊されて遺産が失われてしまうということになるので、発掘をせざるを得ないということですが、いかがですか。

委　　員　丹後の歴史は大切なので調査は必要だと思いますが、発掘に関わる職員が多すぎるとすれば、職員数を減らしても良いのではないかと思います。

委　　員　文化財は、歴史資料なので重要だと思います。

事 務 局　遺跡の発掘については、現在行っているのは任意的な発掘ではなく、高速道路の建設などの伴うどうしてもしなければならないものを行っています。

委　　員　開発事業も減ってきていますが、道路整備などで遺跡があって、工事が遅れるようであれば、発掘はしなければならないと思います。

委 員 長　では、開発行為などで必要なところは急ぐとして、そうでないものはできるだけ進行速度を遅らせるということにしましょう。

委 員 長　市史編さん事業についてはどうでしょうか。

委　　員　「１０年間の市史編さん作業期間の延長について検討してはどうか」とありますが、これはどういった意味でしょうか。

前回の委員会では、作業期間を延ばすことによって、かえって費用が増加

するという議論だったと思いますが。

事 務 局　担当部局の回答では、期間内に作業を完了させることが歳出抑制だと思っているということでした。

委 員 長　これ以上、追加経費を発生させないようにしようとすれば、スケジュールどおりにしなければならないということですね。では、ここでは冊数を減らすということにしましょう。

● 外部評価報告書（案）の検討（第６回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

※　外部評価報告書（案）について、委員会としての意見の再確認を実施。

委 員 長　歳出抑制の郷土資料館管理運営事業及び古代の里郷土資料館管理運営事業の内容について、もう少し分かりやすくすべきと思われます。

「もう少し行きやすいほかの施設に分かりやすく文化財を集約しては」というような表現を、「市の既存の施設の中の訪れやすい施設に文化財を集約しては」とか書いておいたほうが良いかなと思います。

● 外部評価報告書（案）の検討（第７回京丹後市行政評価委員会における主な意見の要旨）

※　委員会からの意見や歳出抑制案の提案内容について、担当部局との議論の機会を持ち、最終的な委員会としての意見のまとめを実施。

委 員 長　遺跡発掘調査事業について、発掘を担当している職員が複数いるという前提で議論していましたが、担当部局の説明では担当職員は一人だけで、削りようがないということですが、これについていかがでしょうか。

交通整理のために伺いますが、発掘調査の担当課はどこで、何人の職員がおられますか。

担当部局　担当課は文化財保護課で、現在、職員５人と市史の専門員として嘱託１人で合計６人の体制です。

委 員 長　発掘調査を担当する職員として何か資格は必要でしょうか。

担当部局　資格の制度としてはありませんが、経験が必要で、研修を十分に受けた職員について京都府が大丈夫と認めた職員を配置しています。

委 員 長　実際の発掘作業では、全体的にその職員が指揮命令を行いながら、場合によっては発掘も行い、アルバイト的な人を使っているということでしょうか。

担当部局　そうです。

委 員 長　そうならば、減らしようがないと思いますが、いかがでしょうか。

委　　員　専門的な仕事なので、仕方ないと思います。

委 員 長　では、歳出抑制の遺跡発掘調査等事業の項目については、項目ごと削除としたいと思います。

　続いて、歳出抑制の郷土資料館管理運営事業及び古代の里郷土資料館管理運営事業について、委員会としては、提案のとおり直ちにやってくださいということは求めていません。

　既存の資料館の集客力には限界があると思われますので、抜本的に改善するには、人がもっと来やすい、集まりやすいようなものにいっそ変えたらどうだろうかという委員会からの提案ですが、これに対して担当部局の意見として新たな施設を作るには多額の費用が掛かり困難ということです。

　委員会の意見としては、遊休施設が出てきたときに検討してもらえれば良いというスタンスで、急ぐ必要はないと考えています。

　したがって、この項目については、少し文言を変えて、直ちに廃止、来年から直ちにすべきということではないということが分かるように修正してはと思います。よろしいでしょうか。

委　　員　いいです。

委 員 長　次に市史編さん事業ですが、担当部局からの説明を踏まえ、提案を直したほうがいいというような意見がありましたらお願いします。

委　　員　当初の予定よりも発行が延びると説明があり、スケジュールが遅れると経費が増えるので発行冊数を減らしてはということだったと思いますが、予定どおりに進んでいて、予算も増えないのであれば、予定どおりの冊数でもよいと思います。

担当部局　１０年で一つの区切りをつけたいと考えており、確約はありませんが平成２６年度で終了したいと思っています。

委 員 長　今回の評価については、各施策の中であえて縮小して歳出を減らしていくのであれば、どういったアイデアが考えられるのかという発想で行っていま

す。

多大な影響があることも理解していますが、委員会の提案が無理ということであれば、ほかの事業での削減を考えていただくしかないということになります。委員会としては、ほかの事業よりはこの事業でやったほうがよいのではないかという提案です。

本日の補足説明でたいへん参考にはなりましたが、あくまでも一つの提案ですので、ご意見がなければ、このままの提案でいきたいと思います。